

災害事例と

ヒューマンエラー

59 カッターナイフによる切創

断熱材をカッターナイフで切断中 左手薬指を切創

刃物という言葉は、カミソリ、包丁、小刀など“切れる”というイメージがあり、使用には注意を払う。しかし、カッターナイフと聞いても、あまり危険を感じないのはなぜだろうか。

NPO法人 建築技術支援協会
笠原 秀樹

(労働安全コンサルタント)

▶ 最近、カッターナイフによる切創が増えているという報告があります。カッターナイフは研いで使う必要がなく、刃先だけが容易に交換できます。切れ味は常に鋭利ですが、その割に取り扱いは安易です。

建設業の型別死傷者数のうち、『切れ・こすれ』の中で、「刃物などに接触して」の9.6% (2556件) は、転倒 (7.6%)、激突 (8.1%)、はさまれ (11.1%) に比べても非常に多いことが分かります (安全衛生年鑑平成15年版：中災防発行)。

しかし、指を切る程度のケガの多くは休業4日未満災害で処理し、赤チン災害として災害統計にも載らないため、実災

害はこの数倍はあるものと思います。

カッターナイフの歴史は、昭和31年にオルファ(株)の創業者・岡田良男氏の発明で、商標の『オルファ』は、「替え刃の先端を折って使う折る刃 (オルハ)」に由来し、今では替え刃の折れ線の角度などは世界標準となっています。

カッターナイフには多くの種類があり、建設現場で使うのは大型万能型と呼ばれる、直線型の替え刃を使うものです。

今回は、様々なカッターナイフによる切創事例を集め、5つの対象物に分けてみました。ツールボックスミーティング (TBM) などで周知・活用し、切創災害防止に役立てていただければ幸いです。

① 断熱材をカッターナイフで切断中に指を切創



内装工が、左手で定規を押さえながら、カッターナイフでケイカル板（耐火断熱材）を切断中に左手薬指を切創した。[H 2：危険軽視、慣れ]

※H 2 やH 4 の記号は、建設業のヒューマンエラー分類区分を表わします。詳しくは、4月号25頁【一口メモ】を参照して下さい。

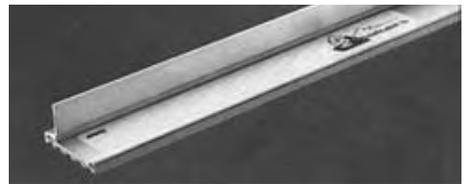
原因と対策

内装工にとってカッターナイフは必需品であるため、扱いは慣れていると思いますが切創は多いのです。作業はボードに定規を当て、定規に沿ってカッターナイフで切断しますが、災害のほとんどは定規を押さえたほうの手を切創します。

切創を防ぐためには、金属製の薄い定規よりも厚みのあるものが手指の損傷を防ぎます。

このようなことを配慮した様々なボードカット用定規が開発されています。例えば、断面が逆T字型になっているものや、持ち手が付いたものなどがあります（写真）。

また、切創防止用手袋も有効です。アラミド繊維や高強度ポリエチレン繊維などを使った手袋は、用途によって様々な種類があります。価格は普通の軍手より高価（性能・用途で差が大きい）です。



【類似災害】

内装工が、石膏ボードをカッターナイフで切断中、左手親指付け根を切創。

内装工が、壁の石膏ボードに貼った塩ビ製コーナーをカッターナイフで切断しようとして、押さえていた指を切創。

置床作業で、薄い合板を立てたままカッターナイフで切断中に指を切創。

養生作業で、薄い合板を床に置いてカッターナイフで切断中に指を切創。

② シーリングを切断中にカッターの刃が折れ指を切創



シーリング工が、ガラスのシーリングを切断中、カッターナイフの刃が折れて人差し指を切創した。[H1：未経験、H2：危険軽視]

原因と対策

シーリングを打ち直す場合など、既設のシーリングを撤去する必要があります。生ゴムのような強い弾性がある硬化したシーリング材を、カッターナイフで取り除くことは容易ではありません。つい力を入れ過ぎて手元が滑ったり、刃が折れて切創します。

カッターナイフは刃先が折れることが利点ですが、シーリング撤去の場合は本事例のように、刃が折れやすいため切創することがあります。このため、替え刃を「折れ線なしカッター替え刃」（市販品）に統一し、革手袋やアラミド繊維手袋と併用することで、切創災害をなくした専門工事業者の事例があります。

シーリングを撤去するには、専用の電動工具（コーキングカッター、ブレードカッターなど）があり、3面接着でも専用の刃で除去することができます。これらの多くは外国製で、手先の器用な日本人にはカッターナイフのほうが作業性が良いため、普及していないようです。

【類似災害】

シーリング工が、左手でシーリングをカッターナイフで切断中、右手首を切創。
サッシ工が、幕板パネルのシールをカッターナイフで切断中、左手中指を切創。

③ 電工がケーブルの被覆をカッターナイフで切断中に切創

電工が、ケーブルのビニール被覆をカッターナイフで切断中、左手親指付け根部を切創した。[H2：悪習慣]



原因と対策

電工が、ケーブルのビニール被覆をカッターナイフでむいていて、ケーブルを持っていた左指を切創しました。電線のビニール被覆をむくことは、電工にとってはごく日常的作業です。

電線のビニール被覆をむくとき、カッターナイフを使うと電線を傷つけるおそれがあるため通常、電工は電線の被覆をむく作業には、ケーブルストリッパーというペンチ型の電線むき工具を使います。

事例の電工は工具を持ち合わせていなかったのでしょうか。

【類似災害】

ケーブルのビニール被覆をカッターナイフで切断中、左手中指を切創。

④ 腰袋から道具を取り出す際にカッターナイフで切創

腰袋から道具を取り出そう
としたところ、カッターナイ
フの刃に触れて切創した。
[H2：慣れ]



原因と対策

この事例は腰袋だけでなく、ポケットや道具箱などでも結構多いのです。カッターナイフを収納するときに、刃を確実にホルダーに引っ込めてネジを締め、ストッパーを掛けておくという、基本動作を守らなかったことが原因です。

類似災害が多いことから、使用後に保護ケースが自動的に出るカッターも開発されています。子供の頃に使った「肥後守」という名称の折りたたみ式簡便小刀は良く切れ、使用後は必ず二つ折りにして刃を収納したので安全でした。

携帯電話用のケースなどをカッターナイフ専用の収納ケースに転用するなど、現場で切創防止の工夫を提案制度などで募ってみてはいかがでしょうか。意外に良いアイデアが出て、さらにカッターナイフの切創災害防止の関心を高めることに役立つかもしれません。

【類似災害】

ポケットからカッターナイフを取り出そうとして、出たままの刃で右手甲を切創。

⑤ サクションホースをカッターナイフで切断中に切創

・普通作業員が、サクションホースをカッターナイフで切断中に左指を切創した。

・配管工が、ポリエチレン管の先端をカッターナイフで切断中に左指を切創した。

[H 2：危険軽視、慣れ、安易]



原因と対策

カッターナイフは内装工だけでなく、建設業ではほとんどの職種の作業員が持っているため、事例のように何でもよいような作業から切創が発生します。ホースやポリエチレン管、シートなどを平らな床や台上に置いたり、固定して作業すれば良いのですが、現場では状況によって難しいこともあります。

木造大工は「道具（鉋）が命」と、鉋やのみ、鋸などの刃物の扱いを大切にしました。使い捨てのカッターナイフの利便性は、作業員に刃物の扱い方と怖さを忘れさせてしまいました。

カッターナイフによる災害はヒューマンエラーの人的要素の中で半数を占めており、その多くは危険軽視、慣れ、安易な行動から発生しています。朝礼で繰り返し注意を喚起し、さらにツールボックスミーティング（TBM）などで災害事例を用いて、最近のカッターナイフ災害の増加傾向と切れ味が鋭い刃物の危険性を繰り返し周知することが大切です。

【類似災害】

内装工が、シートをカッターナイフで切断中、左手を切創した。

① ② ③ ④ バンドエイドはお守り

あるカルチャースクールで、彫刻刀や切り出しナイフなどを使って木材工芸を教えている教室がありました。先生は授業を始める前に、生徒の机に毎回「お守りです」といってバンドエイドを数枚置いていきます。たったそれだけのことで、「ケガをしてはならない」と気持ちが引き締まり、誰もケガをしたことはありません。